

学年	1	コース等		教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2
使用教科書（発行所名）		高等学校改訂版精選現代の国語（第一学習社）							
補助教材等		キーワード漢字2700（浜島書店）、読み解くための現代文単語（文栄堂）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ① 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
 ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
 ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の各領域において論理的思考力や深い共感力、豊かな想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとするとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 論述プリント - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - ノートへの記述の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	「本当の自分」幻想 水の東西	3 1	・「『本当の自分』幻想」を用いて、論理の展開に着目した読解演習を行う。 ・「水の東西」を用いて、対比構造に着目した読解演習を行う。また指示語の働きや内容の考え方を理解する。	・論理の展開を的確に捉え、論理的文章の主旨を読み取ることができる。 ・対比構造に着目し、論理的文章の主旨を読み取ることができる。
	5	水の東西 ものとことば	4 1	・「ものとことば」を用いて、具体と抽象の關係に着目した読解演習を行い、筆者が主張する言語の性質を理解する。	・指示語の働きを理解し、内容を適切な形で示すことができる。 ・具体と抽象の關係を的確に捉え、論理的文章の主旨を読み取ることができる。
	6	ものとことば	3		
	7	【論理分析】 対比/具体と抽象 社会に対する意見文を書く	1 3	・対比構造、具体例を用いた論理の展開について理解する。 ・意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を導き出せるようになる	・対比構造、具体例を用いた論理の展開について理解し、論理的文章の要旨をまとめることができる。 ・意見文の書き方を理解し、自分の経験をもとに意見文を書くことができる。
2 学 期	9	現代の「世論操作」 「文化」としての科学	4 2	・「現代の『世論操作』」を用いて、段落の構成に着目した読解演習を行う。 ・「『文化』としての科学」を用いて、対比構造や段落の構成に着目した読解演習を行う。	・論理の展開を的確に捉え、論理的文章の主旨を読み取ることができる。 ・論理の展開を的確に捉え、論理的文章の主旨を読み取ることができる。
	10	「文化」としての科学 生と死が創るもの	2 3	・「生と死が創るもの」を用いて、段落相互の關係に着目した読解演習を行う。	・文章の内容を的確に把握するために、論理の展開の方法を理解することができる。
	11	生と死が創るもの 【論理分析】 事実と意見 推論 不均等な時間	1 3 2	・文章を分析的に読み、事実から情報を抽出し、意見を形成していく論理の展開と仮説を積み上げて結論を導く論理の展開について理解する。 ・「不均等な時間」を用いて、事例から一般論への展開と対比構造を手がかりとした読解演習を行う。	・文章の内容を的確に把握するために、論理の展開の方法を理解することができる。 ・事例から一般論への展開と対比構造を手がかりとして、論理的文章の主旨を読み取ることができる。
	12	不均等な時間 【論理分析】 主張と根拠 主張と反論	2 3	・文章を分析的に読み、根拠の妥当性と主張との關係、反論によって自分の主張の正しさを補強する論理の展開を理解する。	・文章の内容を的確に把握するために、論理の展開の方法を理解することができる。
3 学 期	1	フェアな競争	4	・「フェアな競争」を用いて、論の展開に着目した読解演習を行う。	・論の展開に着目して、論理的文章の主旨を読み取ることができる。
	2	ロビンソン的人間と自然	4	・「ロビンソン的人間と自然」を用いて、具体例を用いた筆者の意図に着目した読解演習を行う。	・「ロビンソン・クルーソー」を例として取り上げた筆者の意図を理解した上で、論理的文章の主旨を把握することができる。
	3	生活の中の表現	4	・実用的な文章を用いて、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。	・文章や図表に含まれている情報を相互に關係づけながら、内容を解釈することができる。

学年	1	コース等	全	教科	国語	科目	言語文化	単位数	3
使用教科書（発行所名）		高等学校 改訂版 精選言語文化（第一学習社）							
補助教材等		体系古典文法 十訂版（数研出版） さくらさく古文単語380（浜島書店） 漢文必携 五訂版（桐原書店） 長崎の文学（尚文出版）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めているかを評価する。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしているかを評価する。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についているかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 論述プリント・成果物 - 課題	- 定期考査 - 論述プリント・成果物 - 課題	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - ノートへの記述内容の充実度 - 論述プリント・成果物の提出状況 - 課題への取り組み状況・提出状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	古文入門 宇治拾遺物語 「児のそら寝」 宇治拾遺物語 「絵仏師良秀」	2 3	内容読解 あらすじの記述 歴史的仮名遣い 内容読解 品詞や活用形の性質	あらすじの記述を通して内容の理解を深めている。 歴史的仮名遣いに留意しながら音読することができる。 良秀の心情を描写をもとに読みとることができる。 品詞や活用形の性質を理解している。 動詞の活用について理解している。
	5	宇治拾遺物語 「絵仏師良秀」 竹取物語 「なよ竹のかぐや姫」	3 4	動詞の活用 内容読解 形容詞・形容動詞の活用	かぐや姫の常人とは異なる点や翁の心情を読みとることができる。 形容詞・形容動詞の活用について理解している。
	6	小説（二） 夏目漱石「夢十夜」	5	内容読解 内容の解釈	描写から登場人物の心情を読みとることができる。 第一夜の「露」が何を表しているかや、第六夜の連慶が今日まで生きている理由について自分の考えをまとめることができる。
	第1回考査				
	7	漢文入門 故事成語	8	漢文の基本文型 訓読 書き下し文 助字と置き字 再読文字 内容読解 故事成語の意味	漢文の基本構造を理解している。 漢文を訓読することができる。 漢文を書き下し文に直すことができる。 助字や置き字、再読文字の意味・用法を理解している。 故事の内容とそこからできた成語の意味を理解している。
	9	古文／歌物語 「伊勢物語」	8	内容読解 和歌の修辞 助動詞の意味・用法	単語や文法に留意しながら口語訳することができる。 描写や和歌にこめられた登場人物の心情を読みとることができる。 和歌の修辞法を理解している。 助動詞の意味・用法を理解している。
	第2回考査				
2 学 期	10	漢文／史伝 「十八史略」 古文／日記 「土佐日記」	6 3	内容読解 使役形 受身形 疑問・反語形 比較形 抑揚形 内容読解	文章の内容を理解し、登場人物の心情を読みとることができる。 句法を理解し、書き下し文に直したり口語訳したりできる。 文章の内容を理解し、語り手の亡児への追慕の念を読みとることができる。
	11	古文／日記 「土佐日記」 小説（一） 芥川龍之介「羅生門」	2 6	助詞の意味・用法 内容読解 構成・展開・表現の評価	助詞の意味・用法を理解している。 下人の人物像を捉え、その心理の推移を読みとることができる。 比喩や情景描写の表現効果を考え、記述することができる。
	第3回考査				
	12	古文／随筆（一） 「徒然草」 古文／随筆（二） 「枕草子」	5 2	内容読解 敬語の種類や意味 内容読解 敬意の方向	内容を読みとり、兼好のものの見方や考え方を理解している。 敬語の種類や意味を理解している。 内容を読みとり、清少納言のものの見方や考え方を理解している。 文章を読み、誰から誰への敬意を表すかを把握することができる。
	1	古文／随筆（二） 「枕草子」 漢文／思想 「論語」	3 4	特別な敬語表現 内容読解 孔子の思想 諸子百家	特別な敬語表現について理解している。 論語に著された孔子の思想を読みとることができる。 孔子をはじめとした諸子百家の思想体系について理解している。
	2	小説（一） 「砂に埋もれた ル・コルビュジエ」	4	内容読解 構成・展開・表現の評価	一冊の本にまつわる登場人物の思いを読みとることができる。 比喩や情景描写の表現効果を考え、記述することができる。
	第4回考査				
3 学 期	3	和歌・俳諧 漢詩 詩 短歌・俳句	3 3 2	内容読解 韻文特有のきまりや表現 日本の言語文化の特質	描写に即して情景や心情を読みとることができる。 和歌の修辞や漢詩のきまりを理解している。 韻文独特のリズムや表現を読み味わうことができる。

学年	1	コース等		教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
使用教科書（発行所名）		歴史総合 近代から現代へ（山川出版）							
補助教材等		歴史総合ノート（山川出版）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

・地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や総合の関係を、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて構想する。また考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する技能を身に付ける。

・地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする姿勢を身に付ける。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や総合の関係を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート 提出物 授業態度 考査	ワークシート 提出物 授業態度 考査	ワークシート 提出物 授業態度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	・結びつく世界 ・近代ヨーロッパ アメリカ世界の成立	4	・アジア諸地域の繁栄と日本についてイスラーム帝国や中華思想における冊封体制など世界的な要因から理解する。 ・ヨーロッパにおける主権国家体制の形成の過程と、ヨーロッパ人の海外進出の影響について理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	5	・近代ヨーロッパ アメリカ世界の成立	5	・産業革命が与えた社会的影響と、アメリカ、フランスにおける革命の過程について理解する。 ・ヨーロッパにおける国民国家の形成とアメリカの発展、アジアにおける植民地支配について理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	6	・明治維新と日本の立憲体制	6	・開国から明治維新に至るまでの過程と、明治政府の諸改革について理解する。 ・自由民権運動の発生と立憲国家形成の過程について理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	7	・帝国主義の展開とアジア	7	・条約改正交渉と日清、日露戦争に至るまでの国内外の情勢について理解する。 ・帝国主義と列強の動向について理解し、世界分割の過程とその結果生じた対立関係について考察する。 ・日露戦争がアジア諸国に与えた影響について理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
2 学期	9	・第1次世界大戦と大衆社会	7	・日露戦争がアジア諸国に与えた影響について理解する。 ・列強の帝国主義政策が様々な衝突の要因になったことを理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	10	・経済危機と第二次世界大戦	6	・世界恐慌の発生が与えた政治的影響を各国が置かれた状況ごとに考察する。 ・世海恐慌から脱した国の政策と、ドイツをはじめとするファシズム国家の成立について理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	11	・経済危機と第二次世界大戦	6	・我が国における国家主義の発展と、ファシズム国家との関係について理解する。 ・第二次世界大戦の発生の背景と終結に至るまでの過程を理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	12	・戦後の国際秩序と日本の改革	4	・戦後の交際関係と米ソ対立を関連付けて考察する。 ・戦後日本の占領政策について理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
3 学期	1	・冷戦と世界経済	4	・冷戦の発生の政治・社会・経済的背景について考察する。 ・第三世界の形成の要因と時代状況について理解する。 ・我が国の高度経済成長の要因と、問題点について理解する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	2	・グローバル化する世界	4	・冷戦の終結と、ソ連崩壊、それによって生じたグローバル化について理解する。 ・地域紛争の激化とそのような中、期待される日本の役割について考察する。	・歴史的事象を、その背景を含めて考察および理解できる。 ・考察および理解した内容を適切な形で表現することができる。
	3	・現代の課題	4	・現代世界、および日本の諸課題について考察する。	・考察した内容を適切な形で表現することができる。

学年	1	コース等	全クラス	教科	公民科	科目	公共	単位数	2
使用教科書（発行所名）		高等学校改訂版 公共（第一学習社）							
補助教材等		学習の整理と問題改訂版 公共ノート							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理に関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- ワークシート - 提出物 - 授業態度 - 考査	- ワークシート - 提出物 - 授業態度 - 考査	- ワークシート - 提出物 - 授業態度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	公共的な空間をつくる 私たち・社会の中の 自己	5	現代社会に生きる青年 社会的な関係の中で生きる青年	・青年期の特徴と自己形成の課題、価値・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について理解する（知識・技能） ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について多面的・多角的に考察している（思考・判断・表現） ・青年期の特徴と自己形成の課題、価値・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について、自分自身の課題として捉え、主体的に追究している（主体的に学習に取り組む態度）
	5	公共的な空間における人 間としての在り方生き方 - 共に生きるための倫理 公共的な空間における基 本的原理 - 私たちの民主 的社会	8	功利主義と幸福の原理 義務論と構成の原理 生命倫理・環境倫理 公共的な空間における協働とは 民主主義・立憲主義 人権保障の意義と展開	・現代の諸課題と公共的な空間における基本的原理における思想や制度、その意義について理解している（知識・技能） ・現代の諸課題と公共的な空間における基本的原理について多面的・多角的に考察している（思考・判断・表現） ・現代の諸課題と公共的な空間における基本的原理についてそれらの実現における課題を主体的に追究することができる（主体的に学習に向かう態度）
	6	民主政治と私たち	8	民主政治と政治参加 私たちの民主政治 地方自治の仕組みと役割 国会の仕組みと役割 内閣の仕組みと役割 政治参加と選挙	・国内政治の諸制度を民主政治の実現の観点から理解している（知識・技能） ・国内政治の諸制度の意義とその実現の上での課題について多面・多角的に考察し、表現している（思考・判断・表現） ・国内政治の諸制度について人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について主体的に追究している（主体的に学習に取り組む態度）
	7	法の働きと私たち	6	法や基本の意義と役割	・法や社会規範、社会における法の役割、法の種類、裁判の流れと法の適用について理解している（知識・技能） ・法や社会規範、社会における法の役割、法の種類、裁判の流れと法の適用について多面的・多角的に考察して表現できる（思考・判断・表現） ・法や社会規範、社会における法の役割、法の種類、裁判の流れと法の適用について主体的に追究している（主体的に学習に取り組む態度）
2 学期	9	法の働きと私たち 経済社会で生きる私たち	6	法や基本の意義と役割 市民生活と私法 市場経済のしくみ	・司法権とその独立、経済活動の意義、市場経済の仕組みについて理解できる（知識・技能） ・司法権とその独立、経済活動の意義、市場経済の仕組みについて多面的・多角的に考察できる（思考・判断・表現） ・司法権とその独立、経済活動の意義、市場経済の仕組みについて現代社会の課題に照らし合わせて主体的に追究できる（主体的に学習に取り組む態度）
	10	経済社会で生きる私たち	6	国民所得と経済成長 金融のしくみと働き 中央銀行の役割と金融環境の変化	・経済の指標や金融の仕組みや動きについて、資料から必要な常用を読み取り、まとめることができる（知識・技能） ・経済の指標や金融の仕組みや動きについて、多面的・多角的に考察し、表現できる（思考・判断・表現） ・経済の指標や金融の仕組みや動きについて、主体的に追究できている（主体的に学習に向かう態度）
	11	経済社会で生きる私たち 私たちの職業生活	8	財政の働き 財政の課題 社会保障の考え方 社会保障の課題とこれから	・財政・社会保障の諸制度、それらの課題について、各種資料を読み取りつつ理解ができる（知識・技能） ・財政・社会保障の諸制度、それらの課題について多面的・多角的に考察できる（思考・判断・表現） ・財政・社会保障の諸制度、それらの課題について主体的に追究できる（主体的に学習に取り組む態度）
	12	経済社会で生きる私たち 私たちの職業生活	6	働くということ 多様な職業選択 労働者の権利 現代の雇用・労働問題	・働くことの意義、産業社会の発達と職業・労働状況の変化、現代の労働問題について、理解している（知識・技能） ・働くことの意義、産業社会の発達と職業・労働状況の変化、現代の労働問題について、多面的・多角的に考察できる（思考・判断・表現） ・働くことの意義、産業社会の発達と職業・労働状況の変化、現代の労働問題について、主体的に追究できる（主体的に学習に取り組む態度）
3 学期	1	国際社会のなかで生きる 私たち	5	国際社会の成り立ち 国際連合の成り立ち 国際社会と平和主義	・国際社会の成り立ち、国際連合の役割とその課題について理解している（知識・技能） ・国際社会の成り立ち、国際連合の役割とその課題について多面的・多角的に考察できる（思考・判断・表現） ・国際社会の成り立ち、国際連合の役割とその課題について主体的に追究できる（主体的に学習に取り組む態度）
	2	国際社会のなかで生きる 私たち	6	日本の平和主義と冷戦 冷戦後の世界と日本 現代の紛争とその影響 平和な国際社会に向けて	・日本の平和主義と冷戦後の世界の動きと今後の課題について各種資料の収集や読み取りを通して理解できている（知識・技能） ・日本の平和主義と冷戦後の世界の動きと今後の課題について多面的・多角的に考察できる（思考・判断・表現） ・日本の平和主義と冷戦後の世界の動きと今後の課題について主体的に追究できる（主体的に学習に取り組む態度）
	3	国際社会のなかで生きる 私たち	4	貿易の仕組み 国際金融のしくみと動向 グローバル化と今日の国際経済 国際経済の諸課題	・グローバル化する国際経済の現状と課題について、各種資料を読み取りつつ理解できる（知識・技能） ・グローバル化する国際経済の現状と課題について、多面的・多角的に考察できる（思考・判断・表現） ・グローバル化する国際経済の現状と課題について、主体的に追究できる（主体的に学習に取り組む態度）

学年	1	コース等	内進	教科	数学	科目	数学	単位数	6
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ（数研出版）								
補助教材等	チャート式基礎からの数学Ⅰ+A/数学Ⅱ+B+C、サクシード 数学Ⅰ+A/数学Ⅱ+B+C								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

数学的な概念や原理・法則についての知識・技能を習得し、事象を数学的に捉え、論理的に考察する思考力・判断力・表現力を育成する。
数学を活用して問題解決に取り組もうとする主体的な態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学に関する基本的な概念・原理・法則について理解し、それらを用いて計算や作図、処理を正確に行うなど、数学的な技能を身に付けているかを評価する。	数学的な見方・考え方を働かせて事象を捉え、課題を発見・解決する過程において、論理的に考察し、適切に判断するとともに、その過程や結果を数学的に表現しているかを評価する。	数学の学習に関心を持ち、粘り強く課題に取り組むとともに、自己の学習を振り返り改善しようとするなど、主体的に数学を学ぼうとする態度が身に付いているかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録 - ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	I 図形と計量	10	三角比	三角比の意味や性質を理解し、相互関係から他の三角比の値を求めることができる。
	5	I 図形と計量 II 式と証明	8 3 3	三角形への応用 式と計算 等式・不等式の証明	正弦定理や余弦定理について理解し、図形の考察に適用することができる。 二項定理を利用した式の展開や、多項式の割り算、分数式の計算ができる。 等式や不等式の証明方法について理解している。
	6	II 複素数と方程式	9 9	複素数と2次方程式の解 剰余の定理と因数定理	複素数の性質を理解し、諸問題の解決に適用することができる。 因数定理を利用して、様々な高次式を因数分解することができる。
	7	II 複素数と方程式 II 図形と方程式	4 10	高次方程式 点と直線	因数定理を用いて、様々な高次方程式の問題を解くことができる。 直線の方程式の意味や性質を理解し、事象を数学的に考察することができる。
2 学 期	9	II 図形と方程式	10 5	円 軌跡と方程式	円の方程式の意味や性質を理解し、直線との関係を考察することができる。 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。
	10	II 図形と方程式 II 三角関数	5 10	不等式の表す領域 三角関数	不等式の表す領域を図示することができる。 角の拡張を理解し、単位円を用いて関数の性質やグラフを考察することができる。
	11	II 三角関数	5 10	三角関数を含む方程式、不等式 加法定理	三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。 定理を正しく運用し、倍角や半角の公式を諸問題の解決に活用することができる。
	12	II 微分法と積分法	5 5	微分係数と導関数 関数の値の変化	微分の意味を理解し、導関数を用いて接線の方程式を導出できる。 増減表により関数の変化を捉え、最大・最小や不等式の証明に使うことができる。
3 学 期	1	II 微分法と積分法 II 指数関数と対数関数	8 7	積分法 指数関数	不定積分・定積分の計算を習熟し、面積の算出へ多角的に応用することができる。 指数関数について理解し、方程式や不等式を解くことができる。
	2	II 指数関数と対数関数	10	対数関数	対数の定義を理解し、様々な問題の解決に活用することができる。
	3	I データの分析	5	データの分析	分散や標準偏差について理解し、データを考察することができる。
	A	数学と人間の活動	5	数学と人間の活動	整数の性質について理解し、不定方程式の解決に活用できる。

学年	1	コース等	北新	教科	数学	科目	数学	単位数	6
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ（数研出版）								
補助教材等	チャート式基礎からの数学Ⅰ+A/数学Ⅱ+B+C、サクシード 数学Ⅰ+A/数学Ⅱ+B+C								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

数学的な概念や原理・法則についての知識・技能を習得し、事象を数学的に捉え、論理的に考察する思考力・判断力・表現力を育成する。
数学を活用して問題解決に取り組もうとする主体的な態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学に関する基本的な概念・原理・法則について理解し、それらを用いて計算や作図、処理を正確に行うなど、数学的な技能を身に付けているかを評価する。	数学的な見方・考え方を働かせて事象を捉え、課題を発見・解決する過程において、論理的に考察し、適切に判断するとともに、その過程や結果を数学的に表現しているかを評価する。	数学の学習に関心を持ち、粘り強く課題に取り組むとともに、自己の学習を振り返り改善しようとするなど、主体的に数学を学ぼうとする態度が身に付いているかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録 - ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	I 数と式	10	式の計算 実数	多項式の展開や因数分解ができる。 数の体系についての理解を深め、無理数の四則計算ができる。
	5	I 数と式 I 2次関数	8 6	1 次不等式 2 次関数とグラフ	不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1 次不等式を解くことができる。 2 次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。
	6	I 2次関数	18	2 次関数の値の変化 2 次方程式と 2 次不等式	2 次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、最大値や最小値を求めることができる。 2 次関数のグラフとの関係を理解し、2 次不等式の解を求めることができる。
	7	I 集合と命題	14	集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できる。
2 学 期	9	A 場合の数と確率	15	場合の数、確率	順列や組合せの性質を理解し、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。
	10	A 場合の数と確率 I 図形と計量	5 10	確率 三角比	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できる。 三角比の意味や性質を理解し、相互関係から他の三角比の値を求めることができる。
	11	I 図形と計量 A 図形の性質	8 7	三角形への応用 平面図形	正弦定理や余弦定理について理解し、図形の考察に適用することができる。 平面図形の性質について理解し、様々な定理を事象の考察に活用できる。
	12	A 図形の性質 II 式と証明 II 複素数と方程式	3 4 3	空間図形 式と証明 複素数と 2 次方程式の解	空間図形の性質について理解し、事象の考察に活用できる。 多項式の割り算、分数式の計算や等式・不等式の証明ができる。 複素数の性質を理解し、諸問題の解決に適用することができる。
3 学 期	1	II 複素数と方程式 II 指数関数と対数関数	8 7	高次方程式 指数関数	因数定理を用いて、様々な高次方程式の問題を解くことができる。 指数関数について理解し、方程式や不等式を解くことができる。
	2	II 指数関数と対数関数	10	対数関数	対数の定義を理解し、様々な問題の解決に活用することができる。
	3	I データの分析	5	データの分析	分散や標準偏差について理解し、データを考察することができる。
		I 数学と人間の活動	5	数学と人間の活動	整数の性質について理解し、不定方程式の解決に活用できる。

学年	1	コース等	全クラス	教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
使用教科書（発行所名）		改訂 化学基礎（東京書籍）							
補助教材等		三訂版 ニューステージ化学図表（浜島書店）、改訂 ニューアチーブ化学基礎（東京書籍）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

（１）日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
（３）物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則を理解できる。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究できる。	身の回りの化学的な事物・現象（変化）に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト - 課題プリント	- 定期考査 - 小テスト - 課題プリント	- 授業中の活動状況（観察） - 課題への取り組み状況 - ノート等への記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1学期	4	1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素	4	- 化学とは何か - 物質の成分 - 物質の三態	- 混合物から純物質を分離する方法を理解している。 - 混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を理解している。 - 物質の三態について理解している。
	5	1章 物質の成分と構成元素 2章 原子の構造と元素の周期表	5	- 物質の構成元素 - 原子の構造 - 電子配置 - 周期表	- 炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。 - 同素体について、実験をもとに違いを理解している。 - 炎色反応の実験を行い、元素の種類を推測するなど科学的に考察しようとしている。 - 原子の構造を陽子、中性子、電子の性質から理解している。 - 放射性同位体について、年代測定や医療などに用いられていることを理解する。 - 電子は電子殻のエネルギーが低い所から入っていく事を理解する。 - 原子番号1～20までの元素の電子配置について理解している。 - 元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族と周期表の関係について理解している。 - 元素の周期律について規則性を見いだして表現し、元素の性質について考察する。
	6	3章 化学結合	6	- イオンのでき方 - イオン結合 - 分子と共有結合	- イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。 - イオン半径やイオン化エネルギーを元素の周期律との関係性を表現することができる。 - イオン結合およびイオン結合でできた物質の性質を理解している。 - 共有結合を不対電子と関連付けて理解している。 - 配位結合の形成過程を理解している。 - 分子の分子量や極性によって分子間力が変わることを理解している。 - 分子間力の強弱をもとに分子の融点、沸点の違いを説明できる。
	7	3章 化学結合 2編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式	8	- 金属と金属結晶 - 化学結合と物質の分類 - 相対質量 - 原子量 - 分子量・式量	- 金属の性質及び金属結合を理解している。 - 金属とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているかという視点で考えようとしている。 - 化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようとしている。 - 相対質量と原子量について理解している。
2学期	9	1章 物質量と化学反応式	6	- アボガドロ定数と物質量 1 molの気体の体積 - 溶液の濃度	- 物質量と粒子、質量、気体の体積の関係について理解している。 - 物質量と粒子、質量、気体の体積について、友達と話し合いながら見通しをもって観察を行い、得られた結果を分析した活動を行っている。 - 溶液の濃度について、質量パーセント濃度、モル濃度の違いを説明できる。
	10	1章 物質量と化学反応式	8	- 化学反応式 - 化学反応式の表す量的関係 - 化学の基本法則	- 化学反応式やイオン反応式について理解している。 - 化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。 - 化学反応における量的関係についての実験を行い、化学反応式の係数の比と比較させることを通して、物質量の比が化学反応式の比を表すことを見いだした活動を行っている。
	11	2章 酸と塩基	7	- 酸と塩基の性質 - 狭義の酸と塩基の定義 - 広義の酸と塩基の定義 - 酸と塩基の価数と強弱 - 水素イオン濃度とpH - pH指示薬とpHの測定	- 酸と塩基の性質及び定義を理解している。 - 酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見いだし表現できる。 - 水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度やpHで表せることを理解している。 - pH指示薬について理解している。
	12	2章 酸と塩基	6	- 中和反応と塩の生成 - 塩の分類 - 中和反応の量的関係 - 中和滴定 - 滴定曲線	- 酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式について理解している。 - 塩の分類及び塩の水溶液の性質について理解している。 - 酸と塩基の中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。 - 器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を習得し、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 - 中和滴定の実験を行い、食酢の濃度を正確に調べるために、正しく器具を使い、科学的に考察しようとしている。
3学期	1	3章 酸化還元反応	5	- 酸化と還元 - 酸化数	- 酸化と還元が電子の授受によることを理解している。 - 酸化と還元の定義について、友達と話し合いながら確認し、酸化数の増減について見いだす活動を行っている。
	2	3章 酸化還元反応	6	- 酸化剤と還元剤 - 電子の授受と酸化還元反応 - 酸化剤と還元剤の反応 - 酸化剤と還元剤の量的関係 - 金属のイオン化傾向 - 金属の反応性	- 酸化還元反応の化学反応式について理解している。 - 酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得し、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 - 金属のイオン化傾向について理解している。 - 金属の陽イオンへのなりやすさを比較測定し、友達と話し合いながら科学的に考察している。
	3	3章 酸化還元反応 終章 化学が拓く世界	5	- 電池のしくみ - 実用電池 - 金属の製錬 - 化学が拓く世界	- 電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。 - 電池の構造とその用途について、友達と話し合いながら身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 - 身のまわりで化学が利用されているものを探し、それを友達と共有している。

学年	1	コース等	全クラス	教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
使用教科書（発行所名）		現代高等保健体育（大修館書店）							
補助教材等		アクティブスポーツ							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の実践に関する事項や生涯にわたって運動を実践することについて理解しているとともに、運動の基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について理解しているとともに、基本的な技能を身に付けているかを評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともにそれらを他者に伝えているかを評価する。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に自主的に取り組んでいる。集団活動において作戦会議や課題解決のための話し合いに参加している。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組んでいるかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ワークシート ・実技テスト ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	体づくり運動	12	・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気持ちいなり関わり合ったりする。 ・リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気持ちいなり関わり合ったりする。 ・調和のとれた体力の向上を図ったり、選択した運動やスポーツの場面で必要とされる体の動きを高めたりするために、効率のよい組合せやバランスのよい組合せで運動の計画を立てて取り組む。	【知識・技能】 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保したりしている。
	5 6	球技Ⅰ	22	【ア ゴール型】 ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バレーボール ・バドミントン 【ウ ベースボール型】 ・ソフトボール	【知識・技能】 ○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い教え合おうとし、健康・安全を確保したりしている。
	7	体育理論	2	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	○体育理論 【知識】 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 【思考・判断・表現】 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。
2 学期	9	球技Ⅱ	20	【ア ゴール型】 ・バスケットボール ・サッカー 【イ ネット型】 ・バレーボール ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	10	陸上	14	【長距離走】	○陸上 【知識】 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・長距離走では、ペースの変化に対応して走ることができる。 【思考判断表現】 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保したりしている。
		体育理論	2	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	体育理論における評価基準は上記内容と同じ
	11 12	球技Ⅲ	15	【ア ゴール型】 ・サッカー ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バドミントン ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
3 学期	1 2	球技Ⅳ	15	【ア ゴール型】 ・サッカー ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バドミントン ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	3	体育理論	2	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	体育理論における評価基準は上記内容と同じ

学年	1	コース等	全クラス	教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
使用教科書（発行所名）		現代高等保健体育（大修館書店）							
補助教材等		図説 現代高等保健体育							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- ・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識・技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養っている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート	・ワークシート ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	現代社会と健康	2	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた	【知識・技能】 ・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。
	5		2	3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防	
	6		3	5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康	
	7		2	8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康	
2 学期	9		3	10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴	・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。
	10		3	13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症	
	11		3	16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択	
	12	安全な社会生活	2	19 健康に関する環境づくり 1 事故の現状と発生要因	
3 学期	1		2	2 安全な社会の形成 3 交通における安全	【知識・技能】 ・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。
	2		2	4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当	
	3		1	6 心肺蘇生法	

学年	1	コース等		教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2
使用教科書（発行所名）		MOUSA 1（教育芸術社）							
補助教材等		高校生の歌集「つどい」 ミュージックノート							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていくという態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造及び音楽の特徴と歴史的背景との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身につけている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚して、その働きを感受し、それらの関わりについて考え、自らイメージをもって創意工夫している。	音楽と音楽文化に関心をもち、主体的・協働的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 技能テスト - ワークシート - 小テスト	- 技能テスト - ワークシート	- 授業中の学習への取り組みの様子 - 課題の提出状況 - ワークシート

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	豊かな声で歌おう	8	・校歌 ・Ave Maria ・Dona Nobis Pacem ・翼をください	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌唱表現を創意工夫している。
	5	言葉と音楽の関わりを理解して歌おう	4	・この道	曲想と歌詞や楽曲の背景との関わりについて理解している。 どのように歌唱表現するか表現意図を持って創意工夫している。
	6	表現を工夫して合唱をしよう	6	・大地讃頌	合唱による表現の特徴を理解するとともに、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。
	7	外国の歌を歌おう	5	・カーロミオベン	創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱表現している。
2 学期	9	ギターで旋律や和音を弾こう	8	・よろこびのうた ・木星 ・カントリーロード	ギターの基本的な奏法について理解している。 楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につけている。 ギターの独奏やアンサンブルの演奏をすることに興味をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。
	10	オーケストラの表現を味わおう	4	・動物の謝肉祭 ・魔法使いの弟子	各楽器や交響詩について理解している。 テンポの変化と物語の関わりについて考え、よさや美しさを味わって聴いている。 交響詩に興味をもち、主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	11	変奏にチャレンジしよう	6	・きらきら星	音のつながり方やフレーズのまとまりなどを理解するとともに、リズムや音の変化を加えてメロディーを変奏する技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫している。
	12	声部の重なりを意識して歌おう	4	・きよしこの夜 ・もろびとこぞりて	曲想と楽曲の構造との関わりについて理解している。 互いに声の響きを感じ取りながら、どのように歌うのかについて表現意図をもっている。
3 学期	1	情景を思い浮かべ、曲の雰囲気合った合唱をしよう	5	・ふるさと ・朧月夜	音色、速度、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。
	2	歌詞と曲想の関わりを理解して、調和のとれた合唱をしよう	6	・ぜんぶ	互いに声の響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 混声合唱をすることに興味をもち、主体的・協働的に演奏活動に取り組もうとしている。
	3	演奏会を開こう	4		練習の成果が表れており、皆の前で発表するに値する演奏となっている。

学年	1	コース等	普通科	教科	芸術	科目	美術 1	単位数	2
使用教科書（発行所名）		美術 1（光村図書）							
補助教材等		なし							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、傷害にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ○創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	材料・用具の扱い方 知識・技法の習得状況 作品の完成度	発想の独自性 表現の工夫・意図 作品内容およびその説明	制作への意欲 授業に取り組む姿勢 計画性や振り返りの内容

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	「美術とは何か」 「人物クロッキー」		○彫刻作品を鑑賞し、人体の基本的な構造やその時代毎の表現の特徴を理解し、人物の全体的なイメージを捉え、線の強弱や画材の特性を生かして表す。	1. 構図を正しく捉えることができる。 2. 比率を正しく捉えることができる。 3. 骨格や重心を正しく捉えることができる。 4. 抑揚がある豊かな線で捉えることができる。 5. 造形的に美しく表現することができる。
	5	「鉛筆グラデーション」		○形や明暗、造形的な特徴などを基に、幾何形態を捉えることを理解している。 ○意図に応じて鉛筆などの特性を生かすとともに、線の強弱など表現方法を創意工夫して表している。	1. 鉛筆で正しくグラデーションができる。 2. 幾何形態の陰影表現を正しく理解できる。 3. 表現方法を工夫し、創作することができる。
	6	「静物デッサン」		○身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や質感などの効果を考え、構想を練った上で、全体的なイメージを捉え、線の強弱画材の特性を生かして表す。	1. 形や明暗、造形的な特徴などを基に、身近なものの特徴や美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解し、構図を取ることができる。 2. 意図に応じて鉛筆などの特性を生かすとともに、線の強弱など表現方法を創意工夫して表している。
	7	「デザインの世界」 アイコン制作		○サインデザインの制作を通し、形や色彩、文字などによる伝達効果を考え、目的や意図に沿って表現する。	1. 形や色彩の性質やそれらが感情にもたらす効果、伝達の意図や目的に求められる造形的な特徴などを基に、全体のイメージを構築する。 2. 伝達する内容や目的などから主題を生成し、見やすさや美しさの調和、統一感などを総合的に考え、表現している。
2 学期	9	「立体デザイン」 立方体2分割		○立体デザインの制作を通し、形や色彩、量感、重心や全体のバランス、動静などの効果を工夫し、全体のイメージを捉え、表現する。	1. 重心やバランス、動静などを活かして、全体のイメージを構築し、表現している。 2. 立体表現の良さを感じ取り、主体的に主題を生成し、創意工夫して創造的に表現している。
	10	「立体デザイン」 立方体2分割		○立体デザインの制作を通し、形や色彩、量感、重心や全体のバランス、動静などの効果を工夫し、全体のイメージを捉え、表現する。	1. 重心やバランス、動静などを活かして、全体のイメージを構築し、表現している。 2. 立体表現の良さを感じ取り、主体的に主題を生成し、創意工夫して創造的に表現している。
	11	「立体デザイン」 立方体2分割		○立体デザインの制作を通し、形や色彩、量感、重心や全体のバランス、動静などの効果を工夫し、全体のイメージを捉え、表現する。	1. 重心やバランス、動静などを活かして、全体のイメージを構築し、表現している。 2. 立体表現の良さを感じ取り、主体的に主題を生成し、創意工夫して創造的に表現している。
	12	「絵画」の歴史		○西洋絵画や日本画を鑑賞し、技法や構図、色彩表現など、その時代性、地域性の違いを理解し、全体のイメージや作風を捉える。	1. 様々な時代、地域、作品から美しさを感じ取り、表現の特質、作者の意図と創造的な工夫について考え、まとめている。
3 学期	1	「想像を形に」 自我像・想像の世界を表そう		○構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具の特性を活かし表現する。 ○自身のイメージをもとに構想を練り、主題を追求して創造的に表現する。	1. 構図や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで表現することを理解している。 2. 自己を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や創造などから主題を生成し、表現形式の特性を活かし、形態や色彩、構成などを考え、創造的に表現している。
	2	「想像を形に」 自我像・想像の世界を表そう		○構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具の特性を活かし表現する。 ○自身のイメージをもとに構想を練り、主題を追求して創造的に表現する。	1. 構図や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで表現することを理解している。 2. 自己を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や創造などから主題を生成し、表現形式の特性を活かし、形態や色彩、構成などを考え、創造的に表現している。
	3	「鑑賞」 現代アートとは？		○現代アート作品を鑑賞し、その時代性、地域性をもとに主題について考え、表現の可能性について理解を深める。	1. 作品から美しさを感じ取り、表現の特質、作者の意図と創造的な工夫について考え、まとめている。

学年	1	コース等	普通	教科	芸術	科目	書道	単位数	2
使用教科書（発行所名）		書 1 教育図書							
補助教材等									

1. 教科・科目の目標（学習目標）

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け。表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想したり、個性豊かに表現したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関り、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート（WEBでの提出も含む） 半紙	ワークシート（WEBでの提出も含む） 半紙	ワークシート（WEBでの提出も含む） 授業時の取り組み

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準（通年）
1 学期	4	漢字の書 ・楷書	4	【目標】書の表現について考える 探究① 字形が整うというものを考える 探究② 線の太さの変化が書の表現にどのように関係するのか？ 探究③ 書の表現で「強さ」を表現することを考える 扱う古典 【孔子廟堂碑・雁塔聖教序・造像記】	【知識・表現】 用具、用材の特徴と表現効果とのかかわりと、書体や書風と用筆、運筆との関わりについて理解している。 【知識・鑑賞】 線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 【技能】 古典に基づく基本的な用筆、運筆の技能を線質、字形や構成をいかした表現の技能を身に付けている。
	5		7		
	6	・行書	5	【目標】行書の特徴を理解し、行書の表現の可能性を考える。 【キーワード】 変化と統一	
	7		4	探究④ 行書における運筆とは何かを考える 扱う古典 【蘭亭序・王鐸の書・傅山の書・米芾の書】	
2 学期	9	仮名の書	6		【思考・表現】 古典の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 【思考・鑑賞】 作品の価値とその根拠と生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。 【態度・表現】 自身の表現の意図に基づいた創作の学習活動に、自らの学習を調整しながら粘り強く、主体的に取り組もうとしている。
	10		8	【目標】仮名の書の特徴を理解し、仮名の美しさを考える。 探究⑤ 散逸歌の復元について考える	
	11		7	扱う古典 【高野切第3種】	
	12		7		
3 学期	1	漢字かな交じりの書	4	【目標】漢字かな交じりの書の理解と表現の多様性を学ぶ	
	2		4	探究⑥ 表現の多様性とは何を考える	
	3	まとめ	6	探究成果 「書の表現とは何か」をまとめ、発表する。	

学年	1	コース等	普通	教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4
使用教科書（発行所名）		Revised ELEMENT English CommunicationⅠ（啓林館）							
補助教材等		英単語 Stock 4500（BUN-EIDO）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くこと）において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について聞き取ったり、読み取ったり、書いたり、話したりすることができる。	- 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。 - 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。 - 情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている。 - 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。 - 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。	- 話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。 - 書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。 - 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。 - 聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。 - 読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 宿題・課題プリント - 小テスト	- 定期考査 - 宿題・課題プリント	- 宿題・課題プリント - 小テスト - 授業への出席状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1学期	4	Lesson 1 Turning Over a New Leaf	6	・スピーカーのメッセージを読み取る。 ・英語特有の強弱のリズムを聞き取る。 ・生徒同士の日常会話と、失敗に関する講義を聞き取る。 ・クラスメート同士で自己紹介を行う。 ・英語の5文型、受動態、to不定詞	・英語特有の強弱のリズムを理解し、身近な事柄について必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・平易な英語で書かれた短いスピーチを読んで、必要であれば読み直したりしながら、要点を理解することができる。 ・モデルや事前に与えられた会話を促す表現を活用しながら、簡単な語句や文を用いて、自己紹介をし合うことができる。
	5	Lesson 1 Turning Over a New Leaf Lesson 2 Love beyond Species	12	・本文を読んで物語の内容を味わう。 ・英語特有のイントネーションを聞き取る。 ・ペットショップでの会話と、ペットに関する講義を聞き取る。 ・Christian the Lion でお気に入りの場面について伝えるメールの返信を書く。 ・現在完了形／現在完了進行形、分詞の限定用法	・英語特有のイントネーションを理解し、身近な事柄について必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、登場人物の心情を理解することができる。 ・ごく身近な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、気持ちなどを書いて伝えることができる。
	6	Lesson 2 Love beyond Species Lesson 3 Contributing to Our Planet	10	・本文を読んで、環境問題について自分にできることを考える。 ・つながりやすい音を聞き取る。 ・環境に関する会話と、植樹イベントに関するアナウンスを聞き取る。 ・SDGsを実現するために自分たちができることについて、プレゼンテーションを行う。 ・関係代名詞、使役動詞	・つながりやすい音を聞き分け、身近な事柄について必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・身近な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要や要点を理解することができる。 ・社会的な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、自分の考えを話して伝えることができる。
	7	Lesson 3 Contributing to Our Planet Lesson 4 Messages for World Peace	6	・本文を読んで、平和の大切さについて考える。 ・変化しやすい音を聞き取る。 ・博物館を訪れる生徒同士の会話と先生の説明を聞き取る。 ・平和について自分の意見をポスターに書く。 ・過去完了形、知覚動詞	・変化しやすい音を聞き分け、身近な事柄について必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・社会的な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、必要であれば読み直したりしながら、登場人物の心情を理解することができる。 ・社会的な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、自分の意見を書いて伝えることができる。
2学期	9	Further Reading 1 Toward Sustainable Development Goals Lesson5 Fashion and Sustainability	13	・本文を読んで、物語を味わう。	・平易な英語で書かれた物語を読んで、必要であれば読み直しをしたりしながら、概要やストーリー展開を理解することができる。
	10	Lesson5 Fashion and Sustainability Lesson6 Reaching Out to Others	12	・本文を読んで、環境問題について考える。 ・発音されなくなる音や弱く発音される音を含んだ発話を聞き取る。 ・衣服に関する会話と、ファストファッションについての説明を聞き取る。 ・エコクラブで企画したキャンペーンについて、賛成・反対の立場から話し合う。 ・関係代名詞の非限定用法、as～asを使った同義比較	・発音されなくなる音や弱く発音される音を含んだ発話を聞き、社会的な事柄について必要であれば聞き直したりしながら、概要や要点を聞き取ることができる。 ・社会的な事柄について平易な英語で書かれた短い説文を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要や要点を理解することができる。 ・社会的な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、自分の意見とその理由を伝え合うことができる。
	11	Lesson6 Reaching Out to Others	11	・本文を読んで、「支えあい」について考える。 ・短縮形を聞き取る。 ・感謝の表現を含む会話と、感謝についてのスピーチを聞き取る。 ・自分にとって大切な人に、感謝の手紙を書く。 ・関係代名詞のwhat、同格のthat 節をとる名詞	・短縮形を含む発話を聞き、身近な事柄について必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、登場人物の心情を理解することができる。 ・身近な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、気持ちなどを手紙に書いて伝えることができる。
	12	Lesson 7 The Wonders of Language	12	・本文を読んで、言語について関心を深める。 ・オノマトペに関する会話やプレゼンテーションを聞き取る。 ・日本の昔話を英語で発表する。 ・関係副詞、seem[appear]+to不定詞	・身近な事柄についての発話を聞き、必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・平易な英語で書かれた短い説文を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要や要点を理解することができる。 ・身近な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、日本の昔話を話して伝えることができる。
3学期	1	Lesson8 Passing Down Cultural Treasures	10	・本部を読んで、伝統文化について関心を深める。 ・文化遺産に関する会話や説明を聞き取る。 ・海外の伝統工芸品について説明するカードを書く。 ・分詞構文、目的格または所有格による動名詞の意味上の主語	・社会的な事柄についての発話を聞き、必要であれば聞き直したりしながら、概要や要点を理解することができる。 ・平易な英語で書かれた短い説明を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要や要点を理解することができる。 ・身近な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、製品の説明を書いて伝えることができる。
	2	Further Reading 2 My First Christmas Lesson 9 Technology and Discoveries	5	・本文を読んで、物語を味わう。 ・本文を読んで、偉大な発想やひらめきが生まれた経緯を知る。 ・実験器具に関する会話や実験の手順に関する説明を聞き取る。 ・セレンディピティから生まれた発明について発表する。	・身近な事柄についての発話を聞き、必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・身近な事柄について平易な英語で書かれた説明を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要や要点を理解することができる。 ・身近な事柄について、モデルと事前の準備を活用すれば、簡単な語句や文を用いて、情報を話して伝えることができる。
	3	Lesson 9 Technology and Discoveries Lesson10 Standing Up for Human Rights	10	・身近な事柄についての発話を聞き、必要であれば聞き直したりしながら、必要な情報を聞き取ることができる。 ・人権活動家を紹介するショートエッセイを書く。 ・仮定法過去／仮定法過去完了、過去完了進行形	・本文を読んで、人権について考える。 ・ボランティア活動に関する会話や説明を聞き取る。 ・人権活動家を紹介するショートエッセイを書く。

学年	1	コース等	普通	教科	英語	科目	論理表現Ⅰ	単位数	3
使用教科書（発行所名）		Genius English Logic and ExpressionⅠ Revised（大修館）							
補助教材等		Genius 総合英語 English Grammar in 27 Lessons（大修館） Genius 総合英語（大修館）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

コミュニケーションを支えるものとしての文法の形式・意味・機能に習熟し、必要な場面で適切な文法形式を用いて正しく表現することができる。 日常的な話題や社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の展開や構成を工夫しながら話して伝えることができる。
--

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項、話の展開のしかたや論理構成について理解している。 〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、多くの支援を活用すれば、日常的な話題や社会的な話題などについて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて、論理の展開や構成を工夫しながら話したり書いたりして伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話したり書いたりして伝えようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 宿題・課題プリント - 小テスト	- 定期考査 - 宿題・課題プリント - 授業中のパフォーマンス	- 宿題・課題プリント - 授業への出席状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	英文法の基礎知識 Unit 1 Introducing Yourself	5	- 品詞、名詞と動詞、英語の文型、句と節、疑問文・否定文の作り方 - 文型 SV, SVC, SVO, there 構文 - 新しいクラスメートに自己紹介をする	- 英語の基本的な形式を用いて、自分について話したり、クラスメートと互いのことを尋ね合ったりしている。 - SV, SVC, SVO の文型、および there 構文を用い、名前に加え3つのポイントを含む情報を整理して自己紹介のスピーチを行っている。
	5	Unit 2 Talking about a Family Member or Friend Unit 3 Talking about Your School	9	- 文型 SVOO, SVOC - クラスメートに向けて、家族もしくは友人についての紹介を書く - 現在形、現在進行形、過去形、過去進行形 - 海外の生徒に学校生活を紹介する動画のナレーション原稿を書く。	- 家族あるいは友人について、SVOO やSVOC の文型を用い、その人の基本的な情報、その人とのエピソード、その人から受けた影響などの情報を整理して、5文以上のまとまりのある紹介文を書いている。 - 自分たちの学校生活について、現在形、現在進行形、過去形、過去進行形を用いて、時間や場所などの基本情報に加え、生徒がしていることの描写を交えて、5文以上のナレーション原稿を書いている。
	6	Unit 4 Making Plans for the Weekend Unit 5 Sharing Experiences	6	- 未来を表す表現 - 週末のハイキングの計画についてクラスメートとディスカッションを行う。 - 現在完了形、現在完了進行形、過去完了形 - クラスメートに自分の大切にしている物とそれに関わる経験を紹介する。	- 週末のハイキングの計画について、未来を表す表現を用い、自分の考えとその理由を述べながらディスカッションを行っている。 - 自分の大切にしている物とそれに関わる経験について、現在完了形、現在完了進行形、過去完了形を用い、論理の展開や構成を工夫して話している。
	7	Unit 6 Learning Your Way around at School Unit 7 Looking Back	5	- 助動詞 (can, may, must, will, should, ought to) - 海外の生徒のために学校のルールブックを書く。 - 助動詞 (used to, would, had better, 〈助動詞 + have + 過去分詞〉) - 中学時代の反省やそこから得た教訓について、中学生にアドバイスをするプレゼンテーションを行う。	- 学校のルールについて、助動詞 can, may, must, will, should, ought to を用い、してよいこと、してはいけないことなどの情報を整理して、6 文以上で書いている。 - 助動詞 used to, would, had better, 〈助動詞 + have + 過去分詞〉を用い、論理の展開や構成を工夫して話している。
2 学期	9	Unit 8 Recommending the Perfect Place to Go Unit 9 Staying Healthy Unit 10 Thinking about Your Future	10	- 受動態 - 国内のおすすめスポットについて観光客のための案内文を書く。 - 不定詞 (名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、否定、意味上の主語、in order to, so as to) - 高校生が抱える健康問題とその解消策についてスピーチを行う。 - 不定詞 (〈SVO + to 不定詞〉, 〈SVO + 原形不定詞〉, 〈疑問詞 + to 不定詞〉, 〈seem [appear] + to 不定詞〉) - 進路をどのように決めるのがよいかについてディスカッションを行う。	- おすすめスポットについて、受動態を用い、基本情報に加えて3つのポイントを交えて、6 文以上の案内文を書いている。 - 高校生が抱える健康問題の解消策について、不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法と、否定、意味上の主語、in order to や so as to を用い、論理の展開や構成を工夫して話している。 - 進路の決め方について、〈SVO + to 不定詞〉, 〈SVO + 原形不定詞〉, 〈疑問詞 + to 不定詞〉, 〈seem [appear] + to 不定詞〉を用い、自分の意見とその理由を述べながら、ディスカッションを行っている。
	10	Unit 11 Japanese Educational Practices Unit 12 School Events Unit 13 Better Choices	9	- 動名詞 - 学校習慣に対する賛否についてクラスメートとディベートを行う。 - 分詞 - 海外の友人に学校行事について報告メールを書く。 - 比較表現 - 空港から街中へ行くための最適な交通手段について、クラスメートとディスカッションを行う。	- 学校習慣に対する賛否について、動名詞を用い、自分の意見を支持する理由をあげ、また、相手の意見を踏まえ、さらに考えを深めながらディベートを行っている。 - 学校行事について、分詞を用い、その行事の基本情報に加えてその際体験したことや感想などを交えて、8 文以上のメールを書いている。 - 最適な交通手段を旅行者に提案するために、比較を表す形式を用い、データを比較するなどしてその手段を支持する理由を述べながら、クラスメートとディスカッションしている。
	11	Unit 14 A Person You Look up To Unit 15 Extracurricular Activities	8	- 関係代名詞 - 尊敬する人物について説明する文章を書く。 - 関係副詞 - 自分の経験したボランティアもしくは職場体験についてプレゼンテーションを行う。	- 尊敬する人物について伝えるために、関係代名詞を用い、その人物の基本情報に加えて尊敬する理由やその人から受けた影響についてふれながら、7 文以上の紹介文を書いている。 - 自分が参加したボランティア活動あるいは職場体験について、関係副詞を用い、その活動や体験の基本情報に加えて参加した理由や感想といった情報を整理して、プレゼンテーションを行っている。
	12	Unit 16 What Can We Do to Save Resources? Unit 17 What If It Had Never Happened?	9	- 仮定法過去 - 水不足やフードロスの問題とその対処法についてディスカッションを行う。 - 仮定法過去完了	- 水不足あるいはフードロスについて、仮定法過去を用い、その問題について知っていることや、日常的にできる取り組み、その問題について対策をしなかった場合をあげながら、ディスカッションを行っている。 - 自分に大きな影響を与えた人やもの、出来事との出会いについて、仮定法過去完了を用い、もしそれがなかったらという想定を交えて、視覚情報を効果的に用いながらプレゼンテーションを行っている。
3 学期	1	Unit 18 How Can We Protect the Earth? Unit 19 Can Technology Make the World a Better Place?	7	- 接続詞 (等位接続詞、名詞節を導く接続詞) - 環境問題についての意見文を書く。 - 接続詞 (時を表す接続詞、理由・原因を表す接続詞、結果・程度を表す接続詞、目的を表す接続詞、条件を表す接続詞、譲歩を表す接続詞) - 科学技術の発達が我々の生活をより良いものにするかどうかについてディベートを行う。	- クラスメートに環境問題について伝えるために、等位接続詞や名詞節を導く接続詞を用い、関連するグラフのデータに基づいて根拠を示しながら、7 文以上で意見文を書いている。 - 科学技術の発達の是非について、接続詞のうち、時を表すもの、理由・原因を表すもの、結果・程度を表すもの、目的を表すもの、条件を表すもの、譲歩を表すものを用い、自分側の意見を支持する理由や根拠をあげ、また、相手側の意見に対する反論を述べながら、クラスメートとディベートを行っている。
	2	Unit 20 What Do You Like about Japanese Culture?	5	- 名詞構文・無生物主語 - 好きな日本の文化について紹介する記事を書く。	日本について知りたい人に向けて、自分の好きな日本の文化について、名詞構文や無生物主語を用い、その特徴やそれに関わるエピソードを交えて、10 文以上の記事を書いている。
	3	PROJECT 4 Talking about What to Preserve for the Future 年間の文法復習	7	これまでに学んだ表現	国際会議で「未来に残したいもの」について伝えるために、これまでに学んだ表現を活用し、ペア活動やグループ活動を通じて内容をブラッシュアップしながら、伝えたい内容を整理してプレゼンテーションを行っている。

学年	1	コース等	全	教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2
使用教科書（発行所名）		高等学校 改訂版 家庭基礎 持続可能な未来をつくる（第一学習社）							
補助教材等		2026 最新 生活ハンドブック 資料&成分表&ICT（第一学習社）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 提出作品 - 提出課題 - ワークシート	- 定期考査 - 提出課題 - ワークシート	- 学習態度 - 提出課題 - ワークシート

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	1 章これからの生き方と家族	4	生涯の生活設計 家族・家庭と社会とのかかわり	・目標に向かって自分の能力や適性をのばしながら、自分らしさの実現のために、これからの生活をデザインすることができる。 ・家族形態が多様化の中で、課題を明確にしつつ、家族・家庭の重要性について考えようとする姿勢が見られる。 ・「家族に関する法律」の概要を、実生活の場面にあてはめて考えることができる。
	5	5章食生活をつくる	7	人の一生と食事 栄養と食品	・自分の食生活を振り返り、課題を見出し、見直しをはかることができる。 ・私たちの生命と健康を維持するうえで必要な栄養素について理解しようとする意欲が見られる。 ・健康増進のための食品について、表示を確認し、自分の食生活などをよく考えて選ぶことができる。
	6		8	食生活の安全のために 食生活をデザインする	・食品の安全・衛生の観点から、食品の管理について主体的に判断し、食品を適切に扱うことができる。 ・健康を維持し生活習慣病を予防するうえで、1日にどれくらいのエネルギーと栄養をとるのが適切か、日常から関心を持ち、心がけている。 ・食材を生かす献立を考え、調理法を工夫することができる。
	7	3章充実した生涯へ 4章ともに生きる	7	超高齢社会を生きる 社会保障制度と社会的連帯 自分らしい生き方と共生社会	・高齢者の生活に関心を持ち、その充実・向上のために課題を解決しようとする意欲が見られる。 ・これからの社会の担い手として、社会保障制度の充実向上をめざしていく意欲が見られる。 ・すべての人が自分らしく暮らすためにできることを考えることができる。
2 学 期	9	2章次世代をはぐくむ	6	子どもの発達 子どもの生活	・子どもの体の発達・発達に関心を持ち、成長過程に見られる特徴を把握することに意欲が見られる。 ・乳幼児期における育て方が、その後の子どもの発達に大きな影響をおよぼすことを視野に入れ、子どもの食・衣・住生活を思考・判断できる。
	10		7	子育て支援と福祉 調理実習予定	・子育て支援のためにさまざまな法令があることを認識し、その適用を考えることができる。
	11	8章経済生活をつくる	7	私たちの暮らしと経済 消費生活の自立にむけて 持続可能な社会をめざして 調理実習予定	・家計収支のバランスをとることの大切さ、可処分所得の意味について思考を深め、適切に判断する能力を身につけている。 ・被害にあったときや困ったときに、どのように解決すればよいか、相談先などを知っており、適切に思考・判断できる。 ・私たちの行動が現在および将来の世代にわたって影響をおよぼすことを自覚し、エシカル消費を実践する態度を身につけている。
	12	6章衣生活をつくる	5	人の一生と被服 被覆材料 被服管理	・被服の選択に関する基礎的・基本的な知識をもとに、衣生活の向上・充実に取り組むことができる。 ・いろいろな場面にふさわしい素材や布の種類を考えることができる。 ・被服の表示から洗濯方法を考えることができ、これからの購入や管理に活かそうという意欲が高まっている。 ・被服を長く大切に使うために必要な知識や技術を身につけている。
3 学 期	1		5	これからの衣生活	・エシカルファッションに関心を持ち、持続可能な衣生活について考察している。
	2	7章住生活をつくる	6	ひとの一生と住まい 調理実習予定	・住まいの設計や部屋づくりに関する基礎的・基本的知識を身につけている。 ・住居の機能を家族のライフステージの変化とともにとらえ、家族それぞれのための住居のあり方について思考・判断できる。
	3		5	住生活の計画と選択 調理実習予定	・住まいの安全対策や家庭内事故の防止のための対策・工夫のための技術について理解している。 ・どのような住まい方をすれば、人と地球にやさしい住まい方ができるか、自分の価値観や生き方にあわせて思考・判断することができる。